

2006年7月25日
 於:環境パートナーシップオフィス
 持続可能な原材料調達 連続セミナー
 第3回「鉱物資源」

持続可能な鉱業への挑戦 「No Dirty Gold」キャンペーン ICMM基本原則など



地球・人間環境フォーラム
 満田 夏花

1

内容

- NGOによるキャンペーンと国際機関による研究
 - 「No Dirty Metal」キャンペーン
 - 「責任ある金」のためのルール
 - 鉱業と重要な生態系
- 業界による取り組み
 - ICMMの10の原則
 - 責任ある宝飾のための協議会
- 解決に向けて
 - 認証の試み
 - ノルウェー年金基金がフリーポートに「No」
- 「責任ある鉱業」確立に向けた課題

2

There's nothing romantic about a toxic gold mine.

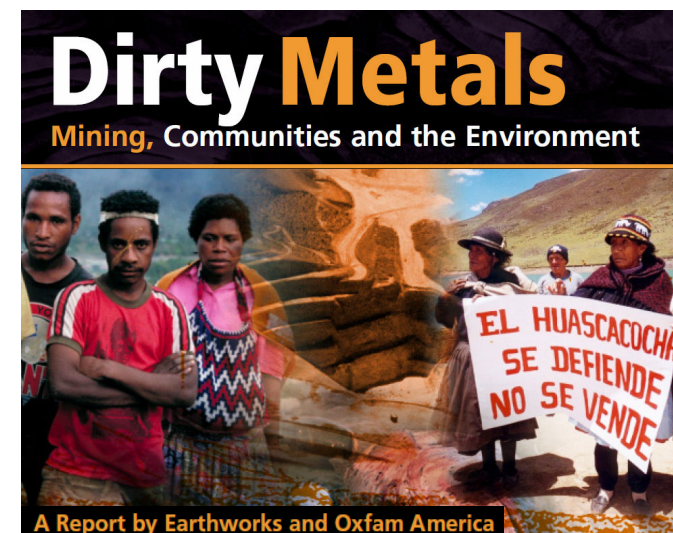
Leading jewelers agree: it's time to clean up gold mining.

「有害な金の鉱山は、
 ロマンチックどころの話
 ではない。」

Retailers who are
 leading the way:

Retailers who are
 lagging behind:

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| ◆ Rolex | ◆ Sears/KMart |
| ◆ Wal-Mart | ◆ Jostens |
| ◆ Fred Meyer Jewelers | ◆ QVC |
| ◆ JCPenney | ◆ Whitehall Jewellers Inc. |



www.nodirtygold.org/dirty_metals_report.cfm

4

「責任ある金」のためのルール① Golden Rules

- 国際条約、国際法などで定められている「基本的人権」の尊重
- 事前の十分に情報提供された上での自由意思に基づく合意
- 安全な労働環境
- ILOに基づく、労働者の権利と労働水準の尊重
- 軍事・紛争地域における操業の回避

5

「責任ある金」のためのルール② Golden Rules

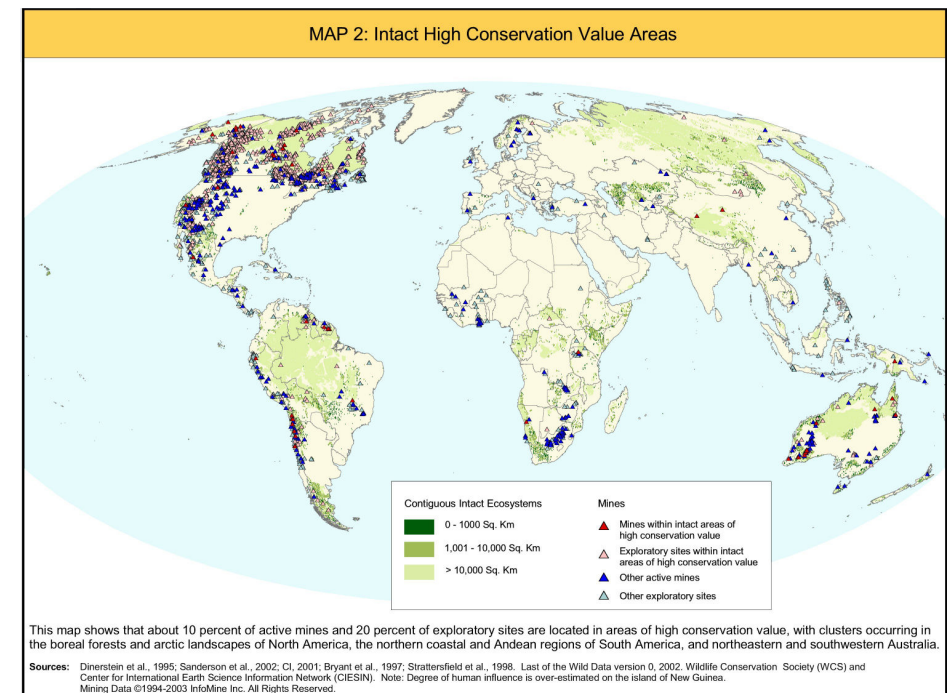
- 鉱山廃棄物を海洋、河川、湖などへ廃棄しないこと
- 強制的な土地収用を行わないこと
- 保護地、脆弱な生態系、保護価値の高い生態系において事業を実施しないこと
- 閉山及び浄化に対してすべてのコストを負担すること
- 環境・社会影響の完全な情報公開を行うこと
- これらについて、独立した検証を行うこと

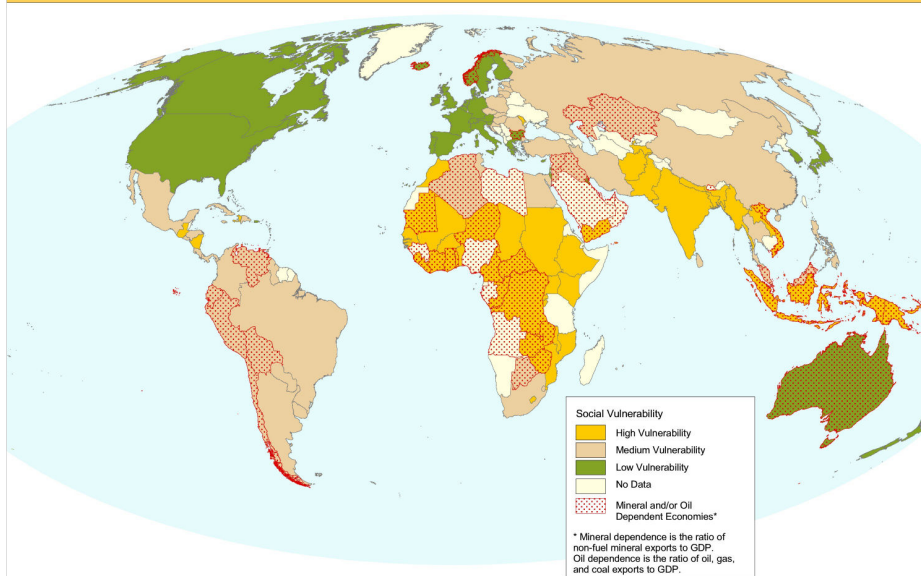
6

WRI 「鉱業と危機にたつ生態系」 *Mining and Critical Ecosystems*

- 政策決定者や金融機関、鉱業セクターに対して、鉱業の環境社会影響を評価するための具体的なデータを提供
- 金融機関は、融資決定の際、鉱業プロジェクト評価のための独立した外部専門家パネルを設置すべき
- ICMMメンバーは、IUCNカテゴリーI～IVの保護地域において鉱業活動は行わない(「No go プレッジ」)ことをコミットすべき(現在は「世界遺産地域」のみが対象)

7





Many countries that are highly dependent on revenues from oil and/or mineral development, including in Central and Southern Africa and Southeast Asia, also are socially vulnerable to the impacts of mining. In this analysis, high social vulnerability refers to low levels of educational attainment and high poverty rates, which limit people's capacity for informed decision-making and their ability to negotiate effectively in their own best interests.

Sources: Barro and Lee, 2002; World Bank, 2003; Ross, 2001.

業界団体などの取り組み

- 事例① ICMM(国際金属・鉱業評議会)
International Council on Mining & Metals
- 事例② 責任ある宝飾のための協議会
Council for Responsible Jewellery Practices

10

鉱物資源産業の持続可能性をめぐる

- MMSD(鉱山・金属・持続可能な開発)
Project 1999-2000
 - 独立した、2年間の協議・及び研究プロセス
 - ロンドンにあるIIED(国際環境開発機関)が運営
 - 業界のほか、多くのNGO、地域グループ、先住民グループ、研究者なども参加
 - WBCSD(持続可能な発展のための世界経済人会議)およびGMI*、企業により支援
 - 23のワークショップの開催

→「Breaking New Ground」

* WBCSD参加の主要鉱山会社によるイニシアチブ

11

ICMM (国際金属・鉱業評議会)

- 金属、鉱業に関わる企業・業界の国際組織(2001年から)
- 「持続可能な開発」をミッションに
- 主要な鉱業・金属企業
Anglo American、BHP Billiton、Codelco、Newmont、Noranda、Phelps Dodge、Placer Dome、Rio Tinto、WMC Limited、Freeport-McMoranなど。日本からは日本鉱業協会、住友金属鉱山、日鉱金属、三菱マテリアル
- MMSDの報告を受け、10の基本原則に合意(2003年5月)

<http://www.icmm.com/>

12

ICMMの10の原則

1. 倫理的な企業統治
2. 意思決定過程への持続可能性の組み込み
3. 従業員・影響を受ける人々の基本的人権、文化、習慣、価値観
4. リスク管理戦略の導入
5. 労働安全衛生パフォーマンス
6. 環境パフォーマンス
7. 生物多様性保全及び土地利用への統合アプローチ
8. 責任ある設計、利用、再利用、リサイクル、廃棄
9. 操業地のコミュニティの社会、経済、制度発展への貢献
10. 効果的、透明性のある関わりとコミュニケーション、独立した証明を伴う報告制度

課題は遵守確保と透明性

13

ICMMの10の原則の特徴と課題

- パッケージとしての遵守義務
- 持続可能な開発のための「義務的枠組み」の第一歩
- レポーティングの義務
- 第三者による保証が必要である
- 「事前の十分な情報に基づく自発的合意」(FPIC)は盛り込まれていない
- レポーティングや第三者保証は「企業」ベースであり、「鉱山サイト」ベースではない→個別事業の透明性は？
- 破壊的な開発を律するには曖昧な基準である→「開発禁止区域」の再検討
- 資本比率の低い鉱山開発をどう考えるか？→バウンダリーの議論？

14

ICMM の活動

- GRIと協働し、鉱業における持続可能性報告のための「補足文書」を作成
- さまざまな事例研究、ツール・キット
- 検証システムに向けた取り組みも

「ICMMのメンバーであるということが、鉱物資源の持続可能性を保証するブランドになればよいと考えています」

15

ICMMの活動

“no-go”プレッジ(2003年8月)

- 世界遺産(歴史遺産、自然遺産)においては開発、採掘を行わない。 (“no-go”)

→「画期的な」コミットメント？

- IUCNと協働し、保護地域システムを強化

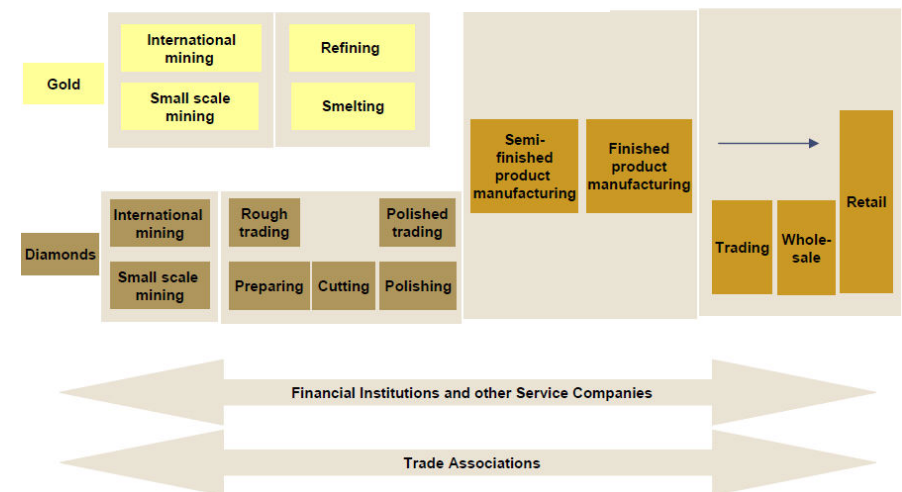
16

責任ある宝飾のための協議会

- 2005年5月設立の非営利組織
- 43企業・団体が参加: ダイヤモンド、金の宝石関連。
川上(鉱山)から川下(小売)まで
- 会員は、サプライ・チェーン全体を人権や環境に配慮した、透明で説明のつくものとするためのコミットメントを行う
- 消費者に対して、ダイヤモンドや金などの宝石類が、倫理的な責任ある手法で生産されたものであることを保証し、信頼性を高める
- 今年3月、「原則」を採択、現在「実施規範」を作成中
<http://www.responsiblejewellery.com/>

17

鉱山から小売までをメンバーに



<http://www.responsiblejewellery.com/>

18

解決に向けて

- 事例① 鉱業活動認証評価事業
Mining Certification Evaluation Project
- 事例② ノルウェー年金基金がフリーポート社に「No」
- 解決に向けた課題

19

事例① 鉱業活動認証評価事業 Mining Certification Evaluation Project

- 鉱山サイト認証の実施可能性を探る研究
 - WWF- Australia、鉱業セクター、研究機関の協働
 - 2002年8月開始。今年1月報告書を発行
 - 「鉱山サイトの第三者認証スキームは可能」
 - ICMMの基準をベースに、MCEPとしての原則と基準を考案: しかし、まだまだ改善の余地あり
 - cf) 事前の、十分な情報に基づく自由意思の合意(FPIC)
- http://www.minerals.csiro.au/sd/SD_MCEP.htm

20

事例② ノルウェー年金基金の決定

- 昨年12月に改組:倫理ガイドライン
- 倫理委員会の設置
 - フリーポート社のパプアにおける操業にNo
 - 1日23万トンのテーリング(鉱滓)の水系への投棄
 - 「広範囲にわたる重大な環境ダメージ」
「回復不可能」
- 財務相:投資の継続により、ノルウェーの年金基金は
”重大な環境ダメージに貢献する受け入れ難いリスク”
にさらされることになる

<http://www.aftenposten.no/english/business/article1341741.ece>

21

「責任ある鉱業」確立に向けた課題

- 巨大な企業、巨大な利権、複雑なサプライ・チェーン
- 「民主度」、汚職・腐敗との関連性
- 情報のギャップ
 - 日本のメディアが取り上げないのはなぜ?
- 「事前の十分な情報に基づく自由意思の合意」
- 開かれた環境社会影響評価(EIA)プロセス
にもとづく意思決定の重要性

22

おわりに

- 必要な国際社会の声 もっと声を
- メディアの力、投資家の力
 - 遠くはなれた生産現場における諸問題を、現実のリスクに
- 生産現場への関心が解決につながる
 - 日本の社会はあまりに関心!
- 進めたい「指輪」キャンペーン
- 国の資源戦略に統合
- 「責任ある投融資」が効果的
 - JBIC「国際金融等業務」など公的資金に監視の目を

23

参考文献

- 谷口正次(2005),「入門・資源危機 国益と地球益のジレンマ」(新評論)
- Earthwarks, Oxfam America(2004), “Dirty Metals – Mining, Communities and the Environment”
- 地球・人間環境フォーラム発行『グローバルネット』2006年5月号
- Council for Responsible Jewellery Practices (2006), Introduction : from Mine to Retail
- Solomon, F. et al (2006), “Mining Certification Evaluation Project – Final Report”
- World Resource Institute(2003), “Mining and Critical Ecosystems – Mapping the Risks”
- 植松和彦(2006)「インドネシア・グラスベルグ鉱山を巡る地域住民問題の動向」、JOGMECレポート
http://www.jogmec.go.jp/mric_web/current/06_27.html

24